

(11) 2つのサイコロを同時に振る。2つのサイコロの目が等しくなる事象を  $A$  とし、2つのサイコロの目の和が8である事象を  $B$  とする。このとき、事象  $A \cap B$  および事象  $A \cup B$  が発生する確率をもとめると、 $P(A \cap B) = \text{⑮}$ 、 $P(A \cup B) = \text{⑯}$  となる。

(12) A君が1枚の硬貨を4回投げ、硬貨の表が2回出る確率は  $\text{⑰}$  である。また、硬貨の表が出る回数が  $k$  回のとき、A君は  $k$  万円の賞金をもらえたとする。A君がもらえる賞金の期待値は  $\text{⑱}$  万円である。

(13) 工場Fの週ごとの機械稼働時間  $x$  (単位：時間) と電気料金  $y$  (単位：万円) について、4週分のデータが表1のように得られている。

表1

週	1週目	2週目	3週目	4週目
$x$	20	50	10	40
$y$	24	31	11	34

このデータの分布は図1のような散布図で表すことができる。2変量  $x, y$  の関係は、図1の点線のよる直線  $y = ax + b$  で近似できるとする。 $a$  と  $b$  の値を表1のようなデータから合理的にもとめる方法として、

$$a = \frac{s_{xy}}{s_x^2}, b = \bar{y} - a\bar{x}$$

と計算するとよいことが知られている。ここで、 $s_x^2$  は変量  $x$  の分散、 $s_{xy}$  は2変量  $x, y$  の共分散、 $\bar{x}$ 、 $\bar{y}$  はそれぞれ変量  $x, y$  の平均値を表す。この方法で、表1のデータを用いて  $a, b$  の値をもとめると、 $a = \text{⑲}$ 、 $b = \text{⑳}$  となる。

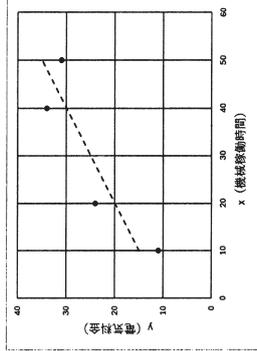


図1

I 以下の  $\square$  に適切な値または式を記入せよ。なお、解が複数ある場合はすべて記入すること。

- (1)  $x^3 - y^3 + x^2y - xy^2$  を因数分解すると、 $\text{①}$  となる。
- (2)  $4\sqrt{2} + 3$  の整数部分を  $a$ 、小数部分を  $b$  とするとき、 $\frac{a}{b}$  の値は  $\text{②}$  である。ただし、 $\text{②}$  には分母を有理化した値を記入すること。
- (3) 自然数  $n$  に対する集合  $S_n = \{n-1, n, n+1, n+2\}$  について考える。例えば、 $S_{25} = \{24, 25, 26, 27\}$  である。 $S_1 \cap S_3 = \{\text{③}\}$  となる。また、 $S_1 \cap S_k = \emptyset$  を満たす自然数  $k$  の最小値は  $\text{④}$  である。
- (4) 放物線  $P$  が点  $(1, 8)$  を通り、点  $(3, 0)$  で  $x$  軸と接するとき、 $P$  をグラフとする2次関数は  $y = \text{⑤}$  である。
- (5)  $\triangle ABC$  の外接円の面積が  $6\pi$  であり、 $\angle BAC = 120^\circ$  のとき、 $BC = \text{⑥}$  である。
- (6) 2次方程式  $x^2 + 7x + 8 = 0$  の2つの解を  $\alpha, \beta$  とするとき、 $\frac{1}{\alpha+2} + \frac{1}{\beta+2} = \text{⑦}$  である。
- (7) 直線  $y = \frac{1}{2}x + 3$  を  $l_1$  とする。直線  $l_2$  は、点  $(-1, 10)$  を通り、直線  $l_1$  に垂直な直線である。このとき、直線  $l_2$  の方程式は  $\text{⑧}$  であり、2直線  $l_1, l_2$  の交点の座標は  $\text{⑨}$  である。
- (8)  $\sin \alpha = \frac{1}{2}$ 、 $\sin \beta = \frac{1}{3}$  のとき、 $\sin(\alpha + \beta)$  の値をもとめると、 $\text{⑩}$  となる。ただし、 $\alpha$  は鋭角、 $\beta$  は鈍角とする。
- (9) 方程式  $(\log_2 4x)(\log_2 x) = 3$  を解くと、 $x = \text{⑪}$  となる。
- (10) 放物線  $y = x^2 - 2x \cdots \text{⑫}$  を考える。放物線  $\text{⑫}$  と原点で接する接線の方程式は  $\text{⑬}$ 、 $\text{⑬} \cdots \text{⑭}$  である。また、傾き2をもち放物線  $\text{⑫}$  に接する接線の方程式は  $\text{⑮}$ 、 $\text{⑮} \cdots \text{⑯}$  である。さらに、放物線  $\text{⑫}$ 、接線  $\text{⑬}$  および接線  $\text{⑮}$  で囲まれる部分の面積の値  $S$  をもとめると、 $S = \text{⑰}$  となる。